

## 令和5年度「学校教育自己診断」アンケート結果に対する分析

### 【生徒による評価】

昨年度に比べ、全般的に1年生の値が下がっている傾向が見られるが、3年生に関しては、ほとんどの値が上がっている。これは、3年間学校に通った結果として岬高等学校がどういう取り組みをして、どういう学校であるかを理解できたのではないかと思われる。特に「エンパワメントスクールに来てよかった」の項目では、2・3年とも3年前より肯定的な値が上昇し、80ポイントを超えている。来年度よりステップスクールとしてスタートするが、地域連携など新たな取り組みが生徒にどんな興味・関心を抱かせるかで、この項目の結果も変わってくるであろう。課題としては、図書室の利用率とクラブの加入率に低さではあるが、これについても来年度は新たな取り組みを考えているので、来年度の結果は、また違ったものになるという期待がもてる。

### 【保護者による評価】

「子どもは、岬高校へ行くのを楽しみにしている」の項目で昨年度より値が下がり気味（特に3年生）ではあるが、生徒による「学校へ行くのが楽しい」の値と比較して、特に3年生では保護者評価の値を大きく上回っている。理由は定かではないが、この齟齬を埋めていく必要はあると考える。「岬高校の先生は、子どものまちがった行動を厳しく指導してくれる」の項目では、2・3年生の値は上昇している。それぞれの生徒に応じた指導を実施していることが結果として表れていると思われる。一方、進路の情報提供に関しては、1・2年生の値が低い。情報提供をしていないわけではないが、うまく保護者まで伝わっていないと思われ、今年度は「進路マップ」を作成し、できるだけ早い段階から進路について考える機会や進路行事を増やすことで、来年度は保護者の皆さまにより多くの情報提供ができる仕組みを考えている。例年の課題として、保護者の皆さまの回答回収率が約半数ということであるため、回収方法も検討していく必要がある。

### 【教員による評価】

ほとんどの項目の肯定的意見が上昇傾向である。生徒に対して、きめ細かく観察し、少しの変化も見逃さず、寄り添う生徒支援ができていると考える。その一方で、授業規律や服装指導等の生徒指導面での値は下がり気味であり、寄り添うことで逆に強く指導しにくい傾向があるのではないかと思われる。しかしながら、社会で活躍できる生徒を育てるためには、それに応じた指導も必要であるため、今後の課題にはなるであろう。また、環境整備への意識も高まってきている。「岬高校に勤務して良かったと思う」の肯定的意見の値が昨年度に比べ、20ポイント以上上昇しており、教員が現在の岬高校で働き甲斐を感じていることは特筆すべきことであり、さらに生徒に対して、好循環な教育の提供が期待できる。